

5/16 出エジプト記 14 章 1-14 節「主の救いを見よ」

小池 宏明 牧師

エジプト中のすべての長子、ファラオの子から家畜の初子に至るまでが死ぬ」という、十番目の最後の災いが下された。ファラオは自分の子どもが、死んだことを知って、モーセとアロンに、「出て行くように」命じ、180 万～200 万人と言われるイスラエルの民がエジプトを旅立った。主なる神様がイスラエルの先に立って導くようにしながら。しかし、主なる神様は、エジプト王ファラオの心を再び頑なにして全軍勢を率いてイスラエルの民を追いかけて襲わせるようにされた。

*主の救いを見よと励ますモーセ

主の民イスラエルは、エジプト軍が追って来るのを見て、主に向かって叫び、モーセに不平不満をぶつけた。これに対して、モーセは毅然として、確信に満ちて、イスラエルを励ました。14 章 13、14 節「モーセは民に言った。「恐れてはならない。しっかり立って、今日あなたがたのために行われる【主】の救いを見なさい。あなたがたは、今日見ているエジプト人をもはや永久見ることはない。

【主】があなたがたのために戦われるのだ。あなたがたは、ただ黙っていなさい。」」この後、本当に、主なる神様は、まるで巨人が小人と戦うように、屈強なエジプト軍をなぎ倒し、蹴散らしてしまわれた。主がイスラエルのために戦い、エジプト軍を滅ぼしてしまわれた。奴隷だったイスラエルが、エジプトから解放される道のは、スムーズには進まなかったが、それも主のご計画であった。ご自身の栄光を顕わすために、主がご自分の民とエジプト軍を扱われたのだ。

*決して引き返せない旅に出た私たち

新約聖書では、エジプトから解放されたイスラエル人の旅を、バプテスマ、洗礼を受けて歩むキリスト者の人生に例えている。(コリント人への手紙第一 10 章 1-4 節) 主の救いを体験した者は、二度と引き帰すことはない。再び、エジプトの地、太陽神を拝むような国で、奴隷に戻ることは出来ない。戻ってはならない。いえ、主なる神様が、力強い御手をもって、救い出した民を決して罪の奴隷にはさせないのだ。私たちの旅においても、主が先頭に立って、時には、苦しめる問題との間に立って導いてくださる。それでも、私たちの信仰の歩みは、決して平坦ではない。「あの時は良かった」「引き帰したい」「なんでこんな目に遭うのだろう」とつぶやく時があるかもしれない。しかし、そのような時「主の救いを見なさい」と、主は励まして下さるのだ。